

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成25年8月14日
【四半期会計期間】	第19期第1四半期（自平成25年4月1日至平成25年6月30日）
【会社名】	株式会社あみやき亭
【英訳名】	AMIYAKI TEI CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 佐藤 啓介
【本店の所在の場所】	愛知県春日井市如意申町五丁目12番地の8
【電話番号】	0568(32)8800
【事務連絡者氏名】	常務取締役 管理本部長 千々和 康
【最寄りの連絡場所】	愛知県春日井市如意申町五丁目12番地の8
【電話番号】	0568(32)8800
【事務連絡者氏名】	常務取締役 管理本部長 千々和 康
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社名古屋証券取引所 （名古屋市中区栄三丁目8番20号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第18期 第1四半期連結 累計期間	第19期 第1四半期連結 累計期間	第18期
会計期間	自平成24年 4月1日 至平成24年 6月30日	自平成25年 4月1日 至平成25年 6月30日	自平成24年 4月1日 至平成25年 3月31日
売上高(百万円)	5,533	5,884	23,210
経常利益(百万円)	469	673	2,108
四半期(当期)純利益(百万円)	264	423	1,159
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	264	423	1,162
純資産額(百万円)	12,033	13,093	12,807
総資産額(百万円)	14,689	16,074	16,168
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	3,862.94	6,185.24	16,927.49
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	81.9	81.5	79.2

(注)1. 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益は、潜在株式がないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。または、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新政権の経済政策や金融緩和により円安・株高へ転じ、経済政策への期待感もあり、全体としての景況感は徐々に改善されつつあります。一方で、中国の経済停滞など海外景気に対する不安感や円安進行による原材料価格の上昇など国内景気の下振れ懸念があり、依然として先行きは不透明な状況となっております。

当業界におきましては、景気回復に伴う個人消費の盛り上がりへの期待はあるものの、依然、雇用・所得環境は改善にまでは至っていない状況にあり、また、原材料価格が上昇するなど取巻く経営環境は厳しい状況となっております。

このような環境の下、当社グループといたしましては、「食肉の専門集団」である強みを活かしたカット方法の改善による原価低減を行うとともに「お客様に喜んでいただき、選んでいただく店舗作り」を目指し、お客様にとって「安心・安全で美味しくて安い」価値感・満足感のある商品の提供に努めるなど他社との差別化を図り、既存店の強化を行ってまいりました。

店舗数につきましては、焼肉事業1店舗（あみやき亭鈴鹿白子店）を新規出店し、当第1四半期連結会計期間末の店舗数は193店舗となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高5,884百万円（前年同期比6.3%増）、損益面につきましては、カット方法の改善による歩留まり向上に伴う原価低減が寄与し、営業利益659百万円（前年同期比45.6%増）、経常利益673百万円（前年同期比43.5%増）、四半期純利益423百万円（前年同期比60.1%増）と増収増益となりました。

また、株式会社あみやき亭単体の当第1四半期累計期間の業績は、売上高4,875百万円（前年同期比4.1%増）、営業利益557百万円（前年同期比25.1%増）、経常利益582百万円（前年同期比23.9%増）、四半期純利益339百万円（前年同期比27.5%増）と増収増益となりました。

< 焼肉事業 >

焼肉事業の当第1四半期連結会計期間末の店舗数は、1店舗新規出店した結果、126店舗となりました。内訳は、あみやき亭109店舗、かるび家5店舗、スエヒロ館12店舗であります。

当社が経営する「あみやき亭」では、品質の向上に徹底的にこだわり「お客様にとって価値感・満足感のある商品」の提供に努め、既存店強化に努めてまいりました。

株式会社スエヒロレストランシステムが経営する焼肉「スエヒロ館」につきましては、「食肉の専門集団」である強みを活かして「チェーン店価格」での商品を提供しております。

以上の結果、焼肉事業の当第1四半期連結累計期間の売上高は、4,669百万円（前年同期比10.7%増）となりました。

< 焼鳥事業 >

焼鳥事業の当第1四半期連結会計期間末の店舗数は、58店舗であります。

焼鳥事業は、当社が経営する「元祖やきとり家美濃路」であります。

焼鳥事業におきまして、焼きの技術向上に努め、「美味しくて、安い」焼鳥や釜めしの提供に努めてまいりました。

また、店舗運営力向上策といたしまして、基本の徹底を行うとともに接客・サービスのレベル向上に向けた社員教育の取組みを行ってまいりました。

以上の結果、焼鳥事業の当第1四半期連結累計期間の売上高は、941百万円（前年同期比10.4%減）となりました。

< その他の事業 >

その他の事業の当第1四半期連結会計期間末の店舗数は、9店舗であります。

内訳は、株式会社スエヒロレストランシステムが経営する、レストランの「スエヒロ館」6店舗、居酒屋「楽市」3店舗であります。

レストランの「スエヒロ館」につきましては、「食肉の専門集団」である当社グループの強みを活かした低価格の「100%国産ハンバーグ」「国産牛ステーキ」を提供するハンバーグ・ステーキの専門店として、引続き品質の向

上に努めてまいりました。

また、居酒屋「楽市」につきましても、メニュー開発を行うとともに商品の品質向上やお客さまの立場に立った接客・サービスの向上に努めてまいりました。

以上の結果、その他の事業の当第1四半期連結累計期間の売上高は、273百万円（前年同期比3.0%増）となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。

(4) 財政状態の分析

(資産の部)

当第1四半期連結会計期間末の資産の内、流動資産は、現金及び預金の減少等により7,573百万円となり、前連結会計年度末と比較して、3百万円減少しました。

固定資産は、建物の減少等により、8,501百万円となり、前連結会計年度末と比較して、89百万円減少しました。

以上の結果、資産の部は、16,074百万円となり、前連結会計年度末と比較して、93百万円の減少となりました。

(負債の部)

当第1四半期連結会計期間末の負債の内、流動負債は、未払法人税等の減少等により2,540百万円となり、前連結会計年度末と比較して、379百万円減少しました。

固定負債は、資産除去債務の増加等により、440百万円となり、前連結会計年度末と比較して、0百万円増加しました。

以上の結果、負債の部は、2,981百万円となり、前連結会計年度末と比較して、379百万円の減少となりました。

(純資産の部)

当第1四半期連結会計期間末の純資産は、利益剰余金の増加等により13,093百万円となり、前連結会計年度末と比較して、286百万円の増加となりました。

以上の結果、自己資本比率は、81.5%となり前連結会計年度末と比較して、2.3ポイント増加となりました。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	144,000
計	144,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年8月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	68,488	68,488	東京証券取引所 名古屋証券取引所 各市場第一部	当社は単元株制度は採用しておりません。
計	68,488	68,488	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減額 (百万円)	資本準備金残高 (百万円)
平成25年4月1日～ 平成25年6月30日	-	68,488	-	2,473	-	2,426

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年6月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	-	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式68,488	68,488	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	-	-	-
発行済株式総数	68,488	-	-
総株主の議決権	-	68,488	-

【自己株式等】

平成25年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（％）
-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-

2 【役員の状況】

(1) 役職の異動

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
取締役 (フードシステム本部長)	専務取締役 (フードシステム本部長)	小坂 治樹	平成25年7月1日

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,840	6,759
預け金	293	281
売掛金	2	2
商品及び製品	40	44
原材料及び貯蔵品	93	117
繰延税金資産	103	115
その他	203	253
流動資産合計	7,577	7,573
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	4,837	4,746
構築物（純額）	381	370
機械及び装置（純額）	191	182
車両運搬具（純額）	2	1
工具、器具及び備品（純額）	179	173
土地	516	516
建設仮勘定	7	19
有形固定資産合計	6,114	6,010
無形固定資産		
ソフトウェア	2	2
その他	46	46
無形固定資産合計	49	48
投資その他の資産		
投資有価証券	3	3
長期貸付金	285	278
繰延税金資産	272	283
差入保証金	1,030	1,033
投資不動産	284	284
その他	550	558
投資その他の資産合計	2,426	2,442
固定資産合計	8,590	8,501
資産合計	16,168	16,074

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	869	713
未払金及び未払費用	1,074	968
未払法人税等	515	283
賞与引当金	91	189
役員賞与引当金	-	5
株主優待引当金	3	14
ポイント引当金	28	27
その他	337	338
流動負債合計	2,920	2,540
固定負債		
負ののれん	0	0
繰延税金負債	24	24
資産除去債務	265	268
その他	149	147
固定負債合計	440	440
負債合計	3,360	2,981
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,473	2,473
資本剰余金	2,426	2,426
利益剰余金	7,906	8,191
株主資本合計	12,806	13,092
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	0	0
その他の包括利益累計額合計	0	0
純資産合計	12,807	13,093
負債純資産合計	16,168	16,074

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	5,533	5,884
売上原価	2,066	2,104
売上総利益	3,466	3,779
販売費及び一般管理費	3,013	3,120
営業利益	453	659
営業外収益		
受取利息	4	4
受取配当金	0	0
受取賃貸料	-	2
協賛金収入	10	5
その他	1	1
営業外収益合計	16	14
営業外費用		
不動産賃貸費用	-	0
営業外費用合計	-	0
経常利益	469	673
特別利益		
受取保険金	1	1
特別利益合計	1	1
特別損失		
固定資産除却損	6	0
減損損失	6	12
その他	1	-
特別損失合計	13	12
税金等調整前四半期純利益	456	662
法人税、住民税及び事業税	181	261
法人税等調整額	10	23
法人税等合計	192	238
少数株主損益調整前四半期純利益	264	423
四半期純利益	264	423

【四半期連結包括利益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	264	423
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	0	0
その他の包括利益合計	0	0
四半期包括利益	264	423
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	264	423

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)
減価償却費	186百万円	179百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月13日 定時株主総会	普通株式	102	1,500	平成24年3月31日	平成24年6月14日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月12日 定時株主総会	普通株式	136	2,000	平成25年3月31日	平成25年6月13日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	焼肉事業	焼鳥事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,216	1,051	5,267	265	5,533
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	4,216	1,051	5,267	265	5,533
セグメント利益又は損失()	389	72	462	9	453

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、居酒屋事業及びレストラン事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	462
「その他」の区分の利益又は損失()	0
全社費用(注)	8
四半期連結損益計算書の営業利益	453

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「焼鳥事業」において減損損失を6百万円計上しております。

当第1四半期連結累計期間（自平成25年4月1日至平成25年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	焼肉事業	焼鳥事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,669	941	5,610	273	5,884
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	4,669	941	5,610	273	5,884
セグメント利益	619	28	647	23	670

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、居酒屋事業及びレストラン事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

利益	金額
報告セグメント計	647
「その他」の区分の利益又は損失()	23
全社費用(注)	10
四半期連結損益計算書の営業利益	659

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「焼鳥事業」において減損損失を12百万円計上しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	3,862円94銭	6,185円24銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	264	423
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	264	423
普通株式の期中平均株式数(千株)	68	68

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

(株式分割、単元株制度の採用及び定款の一部変更)

当社は、平成25年5月15日開催の取締役会及び平成25年6月12日開催の第18回定時株主総会において、株式分割、単元株制度の採用及び定款の一部変更について決議をしております。

1. 目的

平成19年11月に全国証券取引所が公表した「売買単位の集約に向けた行動計画」の趣旨を踏まえ、当社株式を上場している証券市場の利便性・流動性の向上に資するため、1株を100株に分割するとともに単元株制度の採用を行います。なお、この株式分割及び単元株制度の採用に伴う投資単位の実質的な変更はありません。

2. 株式分割の概要

(1) 分割の方法

平成25年9月30日(月)を基準日として、同日最終の株式名簿に記載または記録された株主が所有する当社株式を、1株につき100株の割合をもって分割いたします。

(2) 分割により増加する株式数

平成25年9月30日(月)最終の発行済株式総数に99を乗じた株式数といたします。平成25年7月31日(水)現在の発行済株式総数を基準に計算すると次のとおりとなります。

株式の分割前の発行済株式総数	68,488株
株式の分割により増加する株式数	6,780,312株
株式の分割後の発行済株式総数	6,848,800株
株式の分割後の発行可能株式総数	14,400,000株

(3) 分割の日程

基準日公告日	平成25年9月13日(金)
基準日	平成25年9月30日(月)
効力発生日	平成25年10月1日(火)

3. 単元株制度の採用

(1) 新設する単元株式の数

「2. 株式分割の概要」の効力発生日をもって単元株式制度を採用し、単元株式数を100株とします。

(2) 新設の日程

効力発生日 平成25年10月1日(火)
(参考)平成25年9月26日(木)をもって、証券取引所における売買単位も100株に変更されることとなります。

4. 前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定した場合における(1株当たり情報)の各数値はそれぞれ次のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	38.62円	61.85円
潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益金額	-	-

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 8月13日

株式会社あみやき亭
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山田 順 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 楠元 宏 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社あみやき亭の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社あみやき亭及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 . 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2 . 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。